

からだとの対話

野口体操を再考する

講師 作家・演出家

鴻上 尚史

「野口体操の会」主宰 羽鳥 操



2014年、野口三千三生誕100年を迎えます。創始した体操は、いつしか「野口体操」と呼ばれて半世紀がたちました。その間、朝日カルチャーセンターでは、36年の長きに渡って常設講座として継続することができました。そこで次世代へのメッセージとして、ゆかりの方々をお招きし、「からだ」を縦糸に、それぞれの専門を緯糸として語っていただく講座を企画しました。全体を通すテーマは『からだとの対話』。異分野でご活躍の方々から「からだ」についてのお考えに加えて、野口体操をどのように見ているかもお話しできます。

8月のゲストは鴻上尚史さんです。演出家の意図やストーリーを伝える役者の「からだ」、演劇と「からだ」の関係についてお話しできます。また、モデルの方に鴻上さんの演出法と野口体操、それぞれのからだの使い方を体験してもらう「公開レッスン」をご覧くださいながら、ご参加の皆様の身体アプローチの参考にさせていただきたいと思っています。
(羽鳥・記)

日 時 2013/8/8 1回 木曜日 19:00-20:30

受講料 会員 3,360円 (入会金は5,250円。70歳以上は入会無料、証明書が必要です)
一般 3,990円

※ご入会の優待制度をご利用の方は、お申し出ください。
※日程が変更されることがありますので、ご了承ください。

※講師の病気や、受講者が一定数に達しない場合などには、講座を中止することがあります。
※個人情報は、受講連絡、当社からのお知らせ、企画の内部資料として使わせていただきます。



朝日カルチャーセンター | 新宿
朝日JTB・交流文化塾

〒163-0204 東京都新宿区西新宿2-6-1
新宿住友ビル内 私書箱22号
tel 03-3344-1946
<http://www.asahiculture.com/shinjuku>

<講師紹介>

鴻上 尚史 愛媛県生まれ。早稲田大学法学部出身。1981年に劇団「第三舞台」を結成し、以降、作・演出を手がける。現在はプロデュースユニット「KOKAMI@network」と「虚構の劇団」での作・演出が活動の中心。舞台公演の他にもラジオ・パーソナリティ、エッセイスト、小説家、映画監督、脚本家などとして幅広く活動。また、俳優育成のためのワークショップや講義も精力的に行っている。

羽鳥 操 49年東京生まれ。野口体操の会主宰・立教大学、明治大学非常勤講師。国立音楽大学ピアノ科卒業。75年から野口三千三の指導を受け研鑽を積む。1978年から98年の20年間、助手をつとめる。88年に「野口三千三授業記録の会」を発足させ、野口三千三及び野口体操の記録制作を行った。現在、講演・ワークショップ、執筆活動を行っている。

野口三千三と「野口体操」について

野口三千三（のぐち みちぞう）（大正3年～平成10年）東京芸術大学名誉教授が創始した野口体操は、芸術・演劇・教育界のみならず、現今のボディワークと呼ばれる身体メソッドに、さまざまな影響を与えてきました。動きを“力を抜く”というベクトルで見直す大切さを提唱した身体・運動文化と位置づけられています。

本来、野口が目指した“身体”と“動き”は、常識や固定観念にとらわれず自らの感覚を磨き、自然界が育んだ生命体としてのしたたかな柔らかさ・しなやかさを包摂する「地球生命体としての真の強さ」です。

遡れば「8月15日が一年の始まり」として戦後を生きた野口の原点は、昭和20年、敗戦直後の焼け野が原に立ち、自らも負った身体的ダメージ、その負の現実をあきらかに見つめることだと語っています。戦前・戦中の体育指導者としての反省に基づき、後に「こんにやく体操」の愛称でも呼ばれている体操の理論と技法を、亡くなる直前まで探求し続けた。日本に生まれ、日本に生きた「希有な体操教師」として83年を全うした生涯でした。

世界に類をみない身体観を培った野口体操は、関心を抱いてくださる一人ひとりに、体操という範疇を超えて自然と人間の間を、その本質において捉え直すキッカケとなる可能性を潜めていることでしょう。